

19.9.28

佐倉市

教育センターだより

Vol.13

平成19年9月28日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

教育センターの活用推進に向けて

所長 杉本 勉

6月の教育センターだよりの挨拶文の中で、次のように述べました。「…今まさに、教育を取り巻く環境は大きな変革の時を迎えています。それゆえ、教育センターの使命と機能が問われていると思います。多くの課題に対しての調査・研究と、それらの結果分析による対応策・改善のための提言を可能な限り示し、できるだけ多くの方々の認知度を高め、教育活動により生かしていただけるようにしていきたいと考えています。」「…今後さらにこれらの研究を進化、発展させていく上でも、また教育の機能を高めるためにも、センターの役割の重責を感じているところであります。あわせてセンター資料室には数多くの貴重な資料が収集・保管されていますが、これらの活用も含めて、もっとセンターが先生方や市民の方々にとって身近で気軽に研究・研修のできる機関としてご活用いただけるようにと考えているところであります。」

この考え方にに基づき、次のようなコンセプトで4月以降教育センター内の環境整備に努めてきました。

① センターを知ってもらう…「何処にあるの？何しているところ？」に就いて

- センターのPRをする（センター広報誌を学校訪問等で全職員に配布中）
- センターホームページの充実を図る（定期的な更新作業推進）

② センターを活用してもらう…「見たい、知りたい、聞きたい、調べたい」に就いて

- 資料室の整備（双方向の資料提供・収集などの推進）
- 施設の活用（相談室の活用、会議室の活用数の増加）
- 先生方の「佐倉学」研修の場として
 - ・ 廊下掲示物のテーマ性を明確にする（テーマ別のコーナーを6月に新設）
 - ・ 佐倉市の歴史、学校の歴史が紐解ける資料の収集、整理（整備中）
- 授業に役立てる場所として（指導案、資料、写真、映像資料等の提供）



③ 調査・研究を活かしてもらう…「もっと端的に知りたい」に就いて

- 提供の仕方を工夫・提言などを明確にする（研究ファイルからリーフレットへ）

④ センター研修に参加してもらう…「教育相談の技法を学びたい」に就いて

- 佐倉市では初の教育相談基礎講座を7月に実施

まだまだ不十分なところはたくさんありますが、活用していただけるの方々にとって、より身近でより頼りになるセンターを目指してこれからも充実を図っていきたくと思っています。一度センターに来所していただいて、いろいろとご意見やご感想をお聞かせくださると幸いです。お持ちしております。

学力向上のために

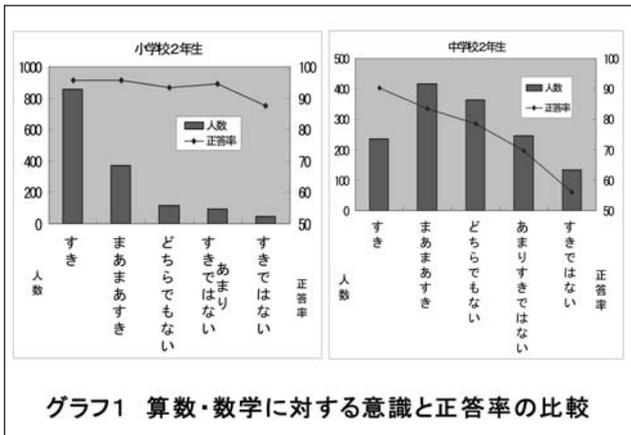
「平成18年度 佐倉市学習状況調査」より

1 佐倉市学習状況調査について

佐倉市教育センターでは、平成15年度から佐倉市独自の学習状況調査を、全小・中学校において全学年実施しています。おかげさまで、数多くの貴重なデータを集めることができました。今回は、「学力向上」に焦点をあてて、紹介したいと思います。

2 各教科の意識について

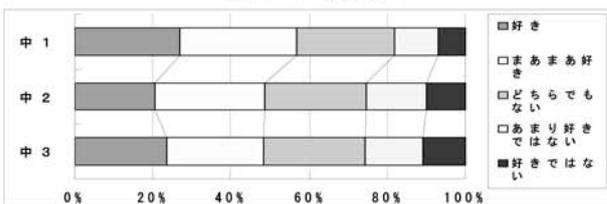
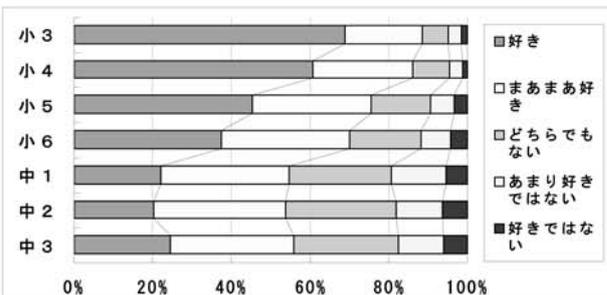
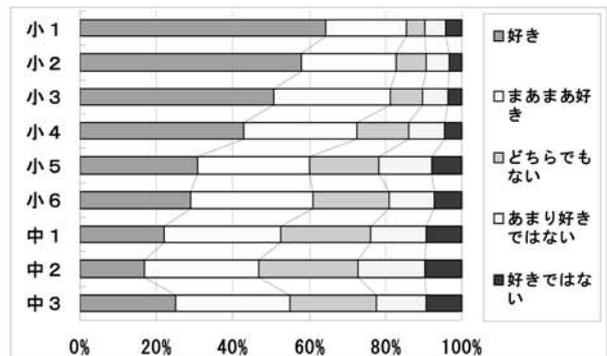
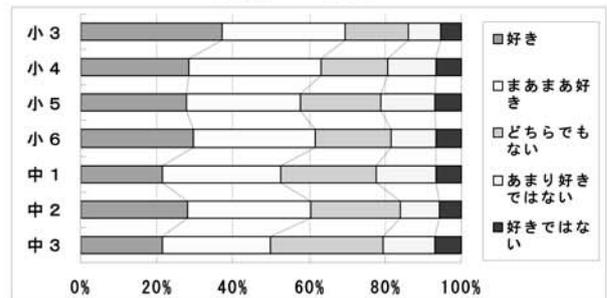
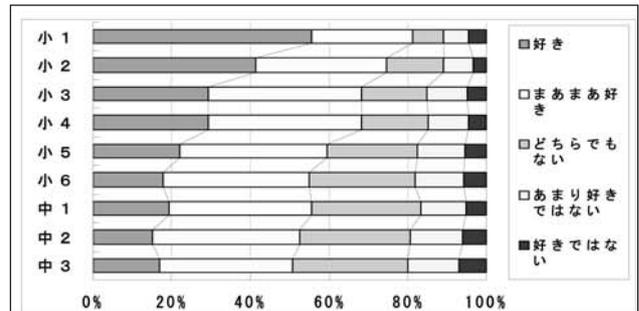
学力とその教科に対する意識には、大きな関係があります。小学校低学年では、意識の違いによる正答率の差が見られませんが、中学校になると「好き」「好きではない」で正答率に大きな差が見られます。【グラフ1】



そこで、各教科の意識調査を実施し、学年別に比較しました。【グラフ2】

各教科の意識の変化を見ると、どの教科にも問題となる点が浮かび上がってきます。国語は、他教科と比べて「好き」「まあまあ好き」の割合が低い傾向が見られます。社会は、小学校中学年と中学校3年生の「好き」「まあまあ好き」の割合が低い傾向が見られるので、地域の学習や公民分野に課題があるといえます。算数・数学と理科は、他教科と比べると「好き」「まあまあ好き」の割合は高いですが、小学校高学年から「好きではない」の割合が急に高くなるのが課題といえます。英語は、中学校から学習するのに、いきなり「好きではない」の割合が高いのが課題といえます。

各教科とも、この意識調査を踏まえて、授業の改善を図り、子どもたちが少しでも興味を持ってその教科の学習を行えるよう工夫する必要があります。

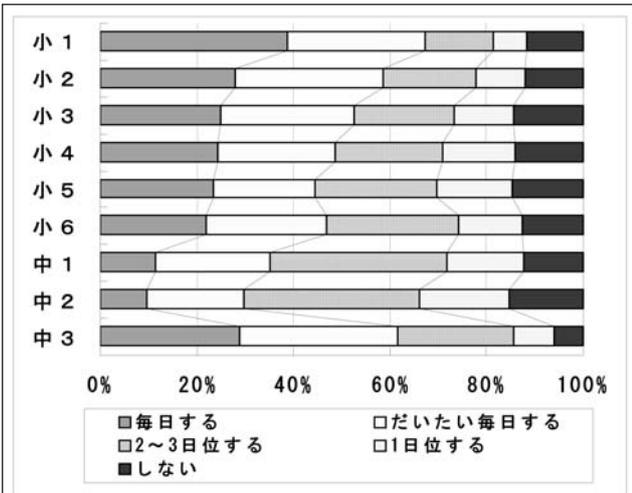


グラフ2 各教科の意識調査【学年別】

3 進んで勉強しているかについて

学力を向上させるには、授業や与えられた宿題だけでなく、自らどれだけ学習しているかが大切です。

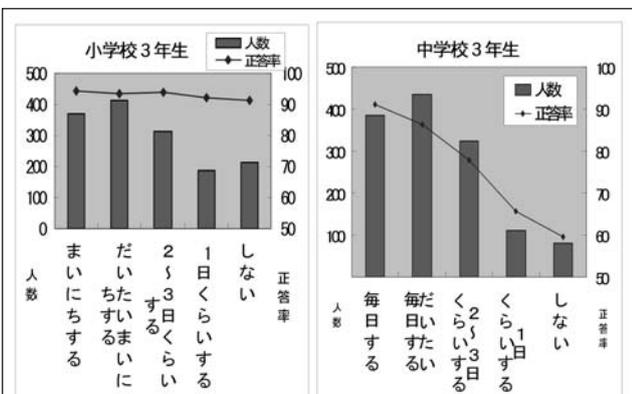
そこで、宿題以外に自分から進んで勉強しているかどうかについて調査しました。中学校3年生は高校受験が近づくので進んで勉強する割合が高くなりますが、それ以外の学年では、**学年が上がるにつれて進んで勉強している割合が下がっています**。中学校2年生で、毎日自分から進んで勉強している生徒は、**全体の1割にも満たないのが現状です**。【グラフ3】



グラフ3 学校の宿題以外に進んで勉強しているかについて

4 進んで勉強しているかと正答率の関係について

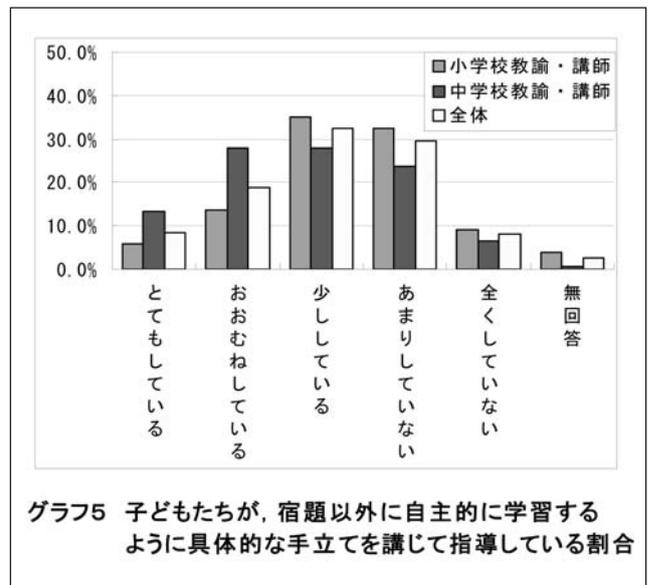
次に、学校の宿題以外に進んで勉強しているかどうかと算数・数学の正答率との関係を調べました。小学校3年生では正答率の差はほとんどありませんが、中学校3年生になると、**勉強を毎日しているかないかで、正答率の差が30点以上あります**。【グラフ4】



グラフ4 学校の宿題以外に進んで勉強しているかと算数・数学の正答率との関係

5 教師の具体的な手立てについて

3と4の結果から、学力向上を図るには授業だけでなく、家庭学習等で進んで勉強するように、教師として具体的な手立てを講ずる必要があります。そこで、市内全小・中学校の教諭と講師を対象に、子どもたちが宿題以外に自主的に学習するように具体的な手立てを講じて指導しているかどうかを調査しました。【グラフ5】



このグラフから見て、小・中学校ともに具体的な手立てを講じて指導している割合は低いといえます。

6 まとめ

近年、新聞報道等で子どもたちの学力低下が指摘されていますが、今回の調査結果から、学力を向上させるには、まずその教科に興味を示し、好きにさせることが大切です。そのためにも、各小・中学校において**今まで以上にわかりやすい授業にしていけることが重要となります**。

「わからない」→「きらいになる」→「やらなくなる」→「ますますわからなくなる」という悪循環ではなく、「わかった」「なるほど」という喜びを感じさせる授業にしていけることが大切です。また、**子どもたちが自主的に学習する習慣を身につけさせることも大切です**。子どもたちの学力は、学校の授業だけで身につくものではありません。学校での授業をきっかけに、自分自身で学んでいけるようにする必要があります。しかし、いきなり小・中学生が自ら学ぶことはできません。まず、**家庭学習の習慣を身につけさせるところから始め、勉強のやり方を教え、勉強の楽しさなどを少しずつ感じさせるように働きかけることが大切です**。(沖永 寛)

子どもたちは、「苦手な教科だけがんばりたい」と思っている

速報

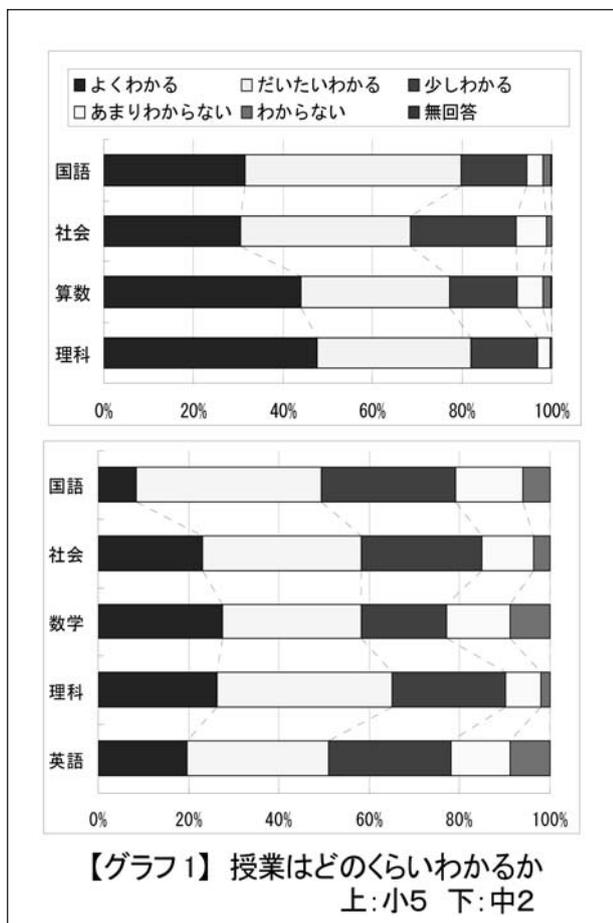
「平成19年度 学習意欲に関する意識調査」より

1 はじめに

平成15年度から佐倉市では小学校、中学校の全児童生徒を対象に、「学習状況調査」を実施してきました。これまでの調査結果によると、児童生徒は、学年が上がるほど、学習意欲が下降傾向にあり、「教科が好き」という気持ちが減少してくる傾向があることがわかりました。そこで、それらの原因や解決の手がかりを見出すために、市内の小学校5年生、中学校2年生及び教師を対象に、「学習意欲に関する意識調査」を実施しました。

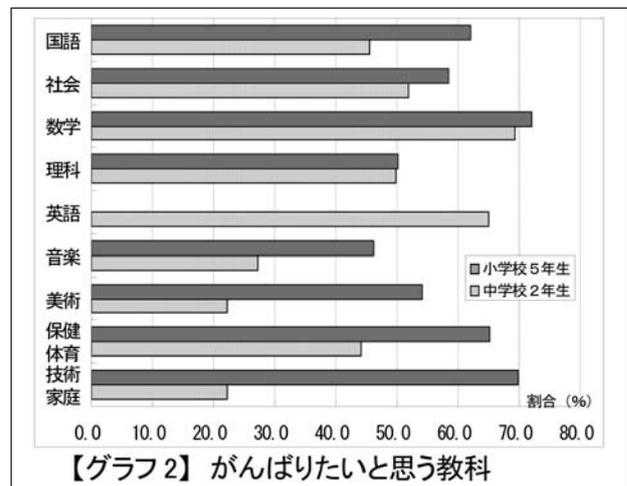
2 中学生は国語・数学・英語が苦手

国語、社会、算数・数学、理科、英語(中学生のみ)について、どのくらい理解できているかをたずねたところ、どの教科についても、「わかる」と回答している割合は、小学校5年生は約7割で、中学2年生は約5割です。しかし、中学校2年生では国語、数学、英語においては2割を超えた生徒が「わからない」と感じています。【グラフ1】



3 がんばりたい教科は算数・数学が多い

「がんばりたい」と思う教科についてたずねたところ、小学校5年生では算数、家庭科、体育、国語、中学2年生は数学、英語について6割以上の児童生徒が「がんばりたい」と回答しています。「わからない」と回答している割合が高い数学と英語も、がんばろうとしている気持ちがうかがえます。【グラフ1, 2】 また、「好きかどうか」の結果と比較したところ、「好きでない」と回答した教科に対しても、がんばりたいと感じている子どもが多くみられました。

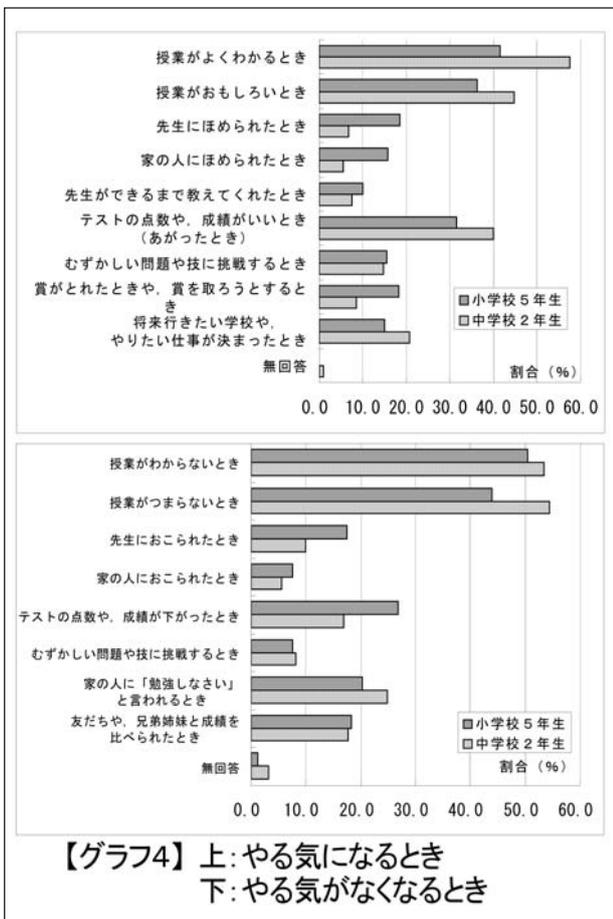
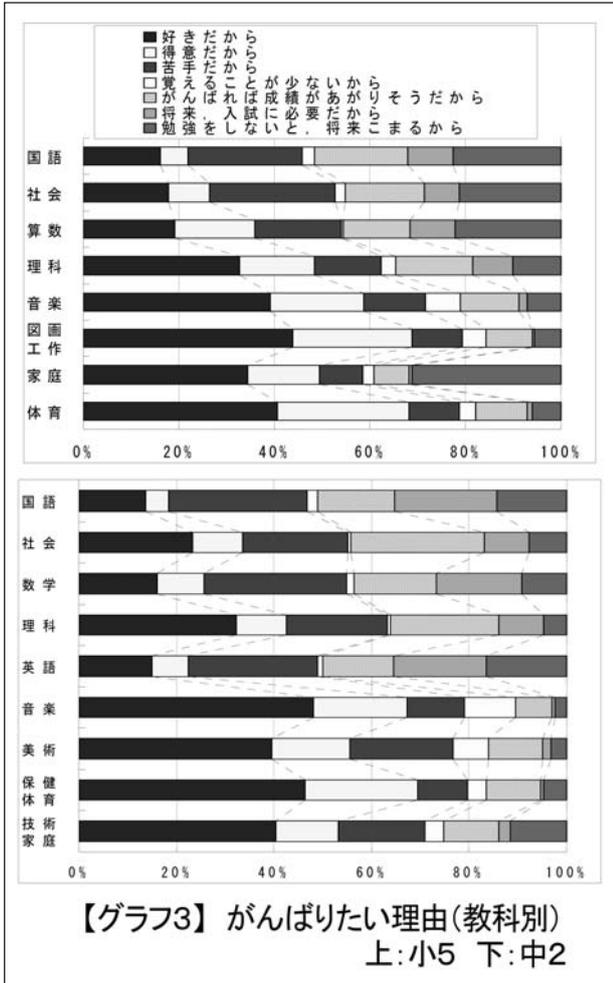


4 苦手教科を克服したい子どもたち

教科による差は見られますが、がんばりたい理由からは、単に「好きだから」という理由だけではなく、苦手意識を克服したいという思いや、成績をあげたいという前向きな意識がうかがえます。また、子どもたちは入試や将来にむけ、勉強の必要性を感じていることもわかります。【グラフ3】

5 子どもたちのやる気のポイントは、やはり授業！

どのようなときに勉強をやる気になるかについては、小学校5年生、中学校2年生ともに「授業がよくわかるとき」「授業がおもしろいとき」が多く、一方、やる気がなくなるときについては、「授業がわからない」「授業がつまらない」の回答が多く見られました。これらのことから、子どもたちのやる気には授業が影響していることがわかります。【グラフ4】

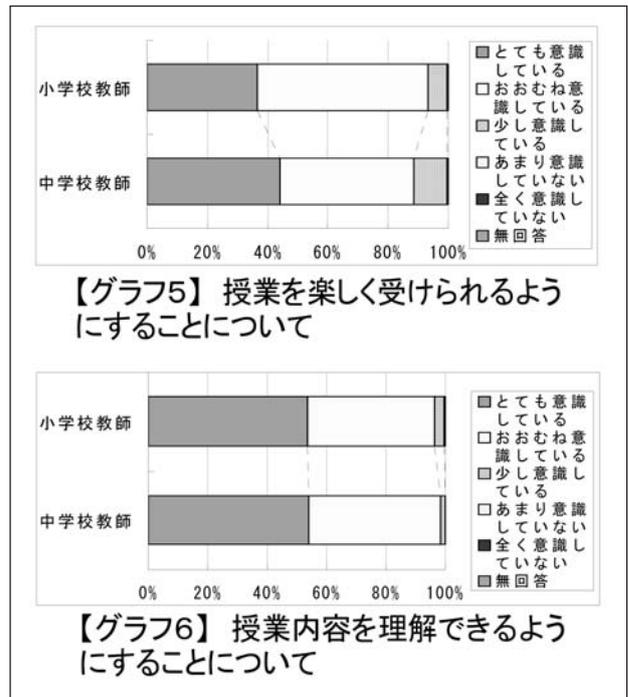


6 先生方は「授業を大切にしている」

先生方に、学習指導で意識していることについてたずねました。「授業を楽しく受けられるようにすること」

【グラフ5】「授業内容を理解できるようにすること」

【グラフ6】について「意識している」と回答された先生は、小学校、中学校ともに約9割です。また、「授業が好きになるようにすること」についても同様でした。先生方が授業に力を入れている様子が見えます。



7 まとめ

子どもたちは、苦手意識をもっていても学習に対しあきらめず、がんばりたいという前向きな気持ちを持っています。その気持ちを維持し、さらに高めていくためには「授業」が大切です。調査結果からは、子どもたちは、「楽しく」、「わかりやすい」授業を求め、先生方も、「楽しく」、「わかりやすい」授業づくりに努めており、学習意欲が高まる要素がそろっていることがわかります。子どもたちが学習内容をどのくらい理解しているか、授業を楽しんでいるか等について、子どもたちの実態を知るためのデータ（例えば授業評価やアンケート）など、客観的な判断をもとに授業づくりを進めていくとさらに効果が高まっていくと思われます。

なお、詳しい結果につきましては、各学校へご報告しますとともに、今年度中に教育センターのホームページ等でお知らせいたします。（前林 典子）

平成19年度佐倉市教育相談基礎講座から

1 はじめに

教育センターでは、この夏、「教育相談の理論と技法を修得し、児童生徒の持つさまざまな問題解決に向けての指導力を育成する」をねらいとして、教育相談基礎講座を実施しました。7月30日、31日の2日間に渡る千葉敬愛短期大学と和田ふるさと館を会場とした研修の様子をご報告いたします。（経験3年以上の先生方：佐倉市19名、酒々井町3名参加）

2 研修概要

	主題・内容	講師
	教育相談の意義 (講話)	千葉敬愛短期大学 講師 桑田 良子先生
7月	発達段階からみた児童・生徒理解(講話)	佐倉市立井野中学校 教諭 根本 栄治先生
30日	構成的グループエンカウンター の理論と実践(演習)	成田市教育委員会 指導課 指導主事 荒金 誠司先生
	不登校児童生徒の理解 と対応(講話)	佐倉市教育委員会 指導課 指導主事 石川 智彦先生
7月	ミニカウンセリング の理論と実践(演習)	佐倉市教育センター 所長 杉本 勉
31日	問題行動の理解と対応 (講話)	子どもと親のサポート センター研究指導主事 折目 宇和先生
	インシデントプロセス による事例研究 (基礎演習)	北総教育事務所指導室 指導主事 青柳 伸二先生



朝から夕方までの過密なスケジュールの中でしたが、始めは堅かった先生方の表情も研修が進むにつれ変化がみられ、なごやかな空気の中で、さまざまな角度からの児童生徒理解の理論や技能を深められた様子でした。また、連日の疲れも感じさせないほど、どの講義・演習においても活気ある話し合いや積極的な取組が見られました。



3 まとめ

佐倉市として、また教育センターとして初の研修内容でしたが、講師の先生の熱心な講義・演習、参加者の先生方の真剣な姿勢に支えられた2日間でした。今回参加された先生方は、学級担任だけでなく、養護教諭や教務主任、校内適応指導教室担当の先生などさまざまでした。このように、学校においてもいろいろな立場の先生が子どもたちと関わりを持つことが大切と考えます。参加者の先生方が自校で実践を積み、子どもたちに活かされていくことを期待しております。最後に参加者の先生方の感想の一部をご紹介します。（前林 典子）

- ・児童生徒に対するかかわり方をもう一度考えて、一人一人の児童生徒をよく見る目を養っていただけたらと思います。
- ・2日間で7講座、めいっぱい学ばせていただきました。学校で実際に取り入れられるものが多く、多くの方が受講されるとよいと思いました。

編集後記

中央教育審議会が、小中学校の授業時間を30年ぶりに増やす素案を示しました。児童生徒の学力低下に歯止めをかけるため、主要教科の授業時間を増やすという内容です。今回のセンターだよりは学力向上をテーマとし、1学期に実施した学習意欲に関する調査の速報も掲載させていただきました。各学校において学習の質を今後さらに高めるために、教育センターも最大限の支援をしていく所存です。（西村 隆徳）